

平成19年度第5回 経営協議会議事要録

日 時 平成20年3月26日(水) 14:00～16:25
場 所 事務局第1会議室
欠席者 坂田理学部長、松田農学部長(代理:太田評議員)、川又委員、
室伏委員

配付資料

- ・ 平成19年度第4回経営協議会議事要録(案)
- 1. 平成20年度国立大学法人茨城大学年度計画(第一次案)
- 2. 平成20年度収入・支出予算(部局別・目的別)
- 3. 国立大学法人茨城大学財政運営計画(案)
- 4. 中長期的(10年～20年)に茨城大学に期待するもの
- 5. 平成19年度茨城大学予算の執行状況について
- 6. 茨城大学リスクマネジメント
- 7. 平成20年度一般選抜(前期日程)入学試験受験者数・欠席者数一覧
- 8. 平成20年度茨城大学学年暦

議 事 概 要

議事に先立ち、学長から、本日会議終了後に、平成18年度の補正予算により整備した施設の見学を予定している旨発言があった。

I 議事要録の確認

平成19年度第4回経営協議会議事要録について、原案のとおり確認された。

II 審議事項

1 平成20年度国立大学法人茨城大学年度計画について

学長から、平成20年度茨城大学年度計画について審議願いたい旨提案があり、さらに、山形理事及び田切学長特別補佐(評価室長)から、配布資料1に基づき年度計画の策定までの経緯及び内容について説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

また、文部科学大臣に提出するまでに文言等の修正が必要となった場合には、学長に一任することとした。

委員から出された主な意見は次のとおり。

- インターンシップについて、在学4年間のうち初期の段階で行う就労体験的なインターンシップと、最後の段階で行う就職を視野に入れたインターンシップがあると思うが、初期のものは学部ごとにやるのではなく全学共通で取組めばさらに効率的になるのではないか。
- 留学生制度について、年度計画の中に受入れに関する記載はあるが茨城大学から派遣する留学生の内容についてももう少し記載が必要ではないか。

○ 地域との連携について、県議会で集中的に審議しているが、財政再建の面から試験研究機関の見直しも求められており、大学への委託研究などの形を通じて大学との連携を推進していけないかと考えている。大学の教員としても研究成果が実際の行政の現場に還元され広がっていくということに繋がっていく方がやり甲斐になるのではないかと。連携といっても何か具体的なものがなければ動いていかないのではないかと。

○ 地域との連携事業はどここの大学でも行われている。それを越えた今までとは違う連携というものに踏み込んでいかないと、法人化後の大学の取り組みとしては十分ではないのではないかと。単に連携事業を羅列するだけではあまり意味がない。どういった事業をやっているかという個々の例よりも、どういった観点でそれぞれの教員がアプローチの仕方を変えていくかというような基本的なところを示した方が良いのではないかと。

2 平成20年度茨城大学予算について

学長から、平成20年度茨城大学予算について提案があり、さらに、長谷川理事から、配布資料2に基づき前回開催の経営協議会に提案し了承を得た収入・支出予算を基礎に作成した部局別・目的別の予算について補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

3 国立大学法人茨城大学財政運営計画について

学長から、第1期中期計画期間における財務改善のための財政運営計画について審議願いたい旨提案があり、さらに、長谷川理事から、内容について配布資料3に基づき補足説明があり、審議の結果、提案のとおり了承された。

委員から出された主な意見は次のとおり。

○ 第1期中期計画期間は21年度までであると思うが、第2期の見通しはどうなっているのか。それをもっていた方がこういう風になるからどこを直さなければならぬ、という所与の条件があった上で第2期の計画を考えるということができると思う。経営協議会に出す必要はないとしても学内ではそういう作業をしておいた方が良いと思う。

○ 運営費交付金が第2期中期計画にはどのように予算措置されるかが不確定でそこをどう反映させるかが課題ということだが、今と同じようにやっていったらこういう問題が生じるのでこうしなければならぬと、そういうものをベースにすると中期計画の議論をしていく上での参考資料となるのではないかと。

4 第2期中期計画策定に当たって茨城大学に期待するものについて

学長から、第2期中期計画策定に当たって茨城大学に期待するものについて意見を伺いたい旨発言があり、学外委員から、内容について配布資料6に基づき説明があり、意見交換が行われた。

委員から出された主な意見は次のとおり。

○ 茨城大学の研究の重点項目を何にするかということ、細かい分野の研究は各学部でそれぞれやるということで良いとして、本当に大事な重点項目は全学的

にまとまって取り組むことで大学の特色ある研究ができてくるのではないか。

- 大学は学生一人一人が努力して、学んで、夢を作って、あるいは感受性を育て、忍耐性を育てていく、そういう環境さえ作っていただければ十分ではないか。茨城大学に望むものというのは、努力している研究者ややる気のある学生のために、現在の環境をさらに整備していくことではないのか。
- 大学独自の特色をどこに出せるかといった具体的な内容が問題だと思うが、理科系のプロジェクトはいくつかあるが、人文科学的なアプローチも含めて取り組むのが大学の姿ではないか。総合大学の特性を生かすためにも、ある程度重点化すると同時に包括的な取り組みが必要ではないか。
- 国際化が進んでいる中で、茨城に根ざした大学として地域と国際化を両立させる手法を大学として独自なものを出していく必要がある。従来は文系理系という分け方をしていたが、そういう枠にとらわれずに両方の考え方をうまく組み合わせ、将来に亘って本当の意味での人材を育成するような教育システムを構築していただきたい。
- 地域に開かれた一般の県民にも気軽に足を運んでいただけるような大学を目指すためにも、知的な財産を数多く有しているのだから、それをどのように発信して、また集めていくか、その拠点になっていくことが大事である。
- 研究にせよ教育にせよプロセスももちろん大事だが、それが結果となって表れなければ意味がない。地域連携であればどういう実績があるか、学生にとっての魅力という意味であれば志願倍率であるとか就職の実績であるとか、できれば数値となって測れる形であれば一番いいと思うが、そういうものが実績として表れてくる大学になっていただきたい。
- 最近、伝統文化をあまりにも忘れた、日本の良さを失った者が大勢いて、厳しい目が向けられている。歴史や日本文化などそういうところを大事にして、大学卒業者としての教養を身に付けられる教育を検討していただきたい。
- 第1期中期計画はどちらかというと合理化が前面にでたものであったので、第2期では大学本来の教育と研究というものがもっと前面にでるような計画を策定してはどうか。それを完成させるためにどのようなことをするかという内容を組み込んだ計画にしていきたい。
- アジアを中心とした留学生受入の積極化について、少子高齢化を迎え大学の入学者確保という観点のみならず、アジアの有能な若者を教育するということは、日本の若者との切磋琢磨の機会にもなり将来的にはプラスになると思う。
- その他、本会議の運営について、時間がない場合には報告事項など毎回やっているような事項であれば、問題ないので認めてくれということで良いのではないか。他の場面においても提案される議題の準備等にかけるエネルギーを他の分野に注ぐとか、より効率的なエネルギーのかけ方も選択肢の一つとして重

要なのではないか。

Ⅲ 報告事項

- 1 平成19年度茨城大学予算の執行状況について
財務課長から、平成19年度予算の執行状況について、配布資料5に基づき報告があった。
 - 2 茨城大学リスクマネジメントシステムについて
学長から、茨城大学リスクマネジメントシステムを策定したので報告したい旨発言があり、内容について配布資料6に基づき報告があった。
 - 3 平成20年度茨城大学入学試験実施状況について
白井理事から、平成20年度茨城大学入学試験実施状況について、配布資料7に基づき報告があった。
 - 4 平成20年度茨城大学学年暦について
白井理事から、平成20年度茨城大学学年暦について、配布資料8に基づき報告があった。
 - 5 その他
 - (1) 次回の経営協議会で議論する個別テーマについて
学長から、次回経営協議会での個別テーマは「入学者の確保方策について」としたい旨発言があった。
 - (2) 経営協議会会議資料の公開について
学長から、経営協議会会議資料の公開について、確認があった。
 - (3) 監事及び経営協議会委員の人事について
学長から、金原監事が3月31日付けで任期満了となる旨紹介があり、退任する金原監事から挨拶があった。後任の監事として、4月1日付けで矢口一美氏が文部科学大臣から任命される予定である旨紹介があった。
続いて、3月31日付けで経営協議会委員としての任期が満了となる岩本委員、宮本委員及び柳生委員から挨拶があった。
- 次回経営協議会 4月4日（金）を予定